

日本語(国語) 【小6】 指導カリキュラム

日本語テキスト



ユニット・指導内容・指導単元一覧表

- 1 ユニットの指導モジュール配分は、日本語力のステップに応じて比率を決める。
現在の日本語力レベルと現在の学年の学習内容、1 ユニット・モジュール配分比率は、概ね下記のようにする。

	ステップに応じた指導内容	:	現在の学年学習内容
【S1】	8	:	2
【S2】	7	:	3
【S3】	5	:	5
【S4】	2	:	8

『指導ユニット・モジュール数配分例』

31	:	8 (モジュール数39モジュールの場合)
19	:	8 (モジュール数27モジュールの場合)
9	:	9 (モジュール数18モジュールの場合)
2	:	7 (モジュール数 9モジュールの場合)

日本語(国語)【小6】4月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小6 4月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
支度（2） 詩 反復表現 比喻	◎ 詩—反復表現の工夫【くふう】 【連、指示語、擬人表現、反復表現】 【S1/S2/S3/S4】 情景を想像しながら、読み味わう。
【語彙・表現】 『支度』『真新しい』『着地(生地)』『革』『うっとり』『ごったがえす』『人いきれ』『気がかり』	
カレーライス（5） 登場人物の相互関係や心情 場面 一言感想文	◎ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえる。 一言感想文を書く。 【S1】 教材文の範読を聞く。 【S2】 登場人物（ひろし、お父さん、お母さん）や言動を追う。 【S3】 「ぼく」の心情を考える。 【S4】 会話や行動の奥にある思いを想像する。
【語彙・表現】 ・場面① 「お父さんウィーク」 前日 『お父さんなんか』『意地を張る』『あきれ顔』『～よくなかった。だけど→いくらなんでもひどいじゃないか』 『そっぽを向いた』『ゆうべ』『丸一日』『うんとおそくなる』『すねてる』『もっと、こう、なんていうか、もっとー。』 ・場面② 「お父さんウィーク」 初日の夕食 『ごきげん』『あまったるくてしかたない』『顔をつっこむようにして』『根気』『仲直り完了。一のはずだったけど、』 『言葉がもやもやしたけむりみたいになって、むねの中にたまる。』 ・場面③ 「お父さんウィーク」 二日目の夕食 『ゆうべ』『先手を打たれたせい』『もしもうし、ひろしくうん、～』 ・場面④ 「お父さんウィーク」 三日目の朝 『翌朝』『真夜中』『食卓』『おかずなんか作らなくてもいいのに。目玉焼きぐらい、ぼくはもう作れるのに。』 ・場面⑤ 「お父さんウィーク」 三日目の学校 『「うげえっ、そんな言うのってかっこ悪いよ。」と自分を冷やかす自分も、～』 ・場面⑥ 「お父さんウィーク」 三日目の夕方 『早退』『居間』『具合が悪そう』『声はしわがれて』『きょとんとしていた』『ほっぺたが急に熱くなった』『ルウ』 『戸だな』『きょとんとした顔』『半信半疑』『うんざりした』『うなずく』 ・場面⑦ 「お父さんウィーク」 三日目の夕食 『不格好』『かおりがぷうんとただよう』『ごきげん』『カレーをほお張った』『ぴりっとからくて、でも、ほんのりあまかった』	
【新出漢字】 源 ゲン 電源 源流 みなもと 生命の源	

晩 盛 胸 片 痛 翌 勤 危 姿 疑 担 視	バン もる キョウ かた ツウ ヨク キン キン シ ギ タン シ	晩ご飯 大盛り 胸囲 片づける 頭痛 翌朝 出勤 危険 姿勢 半信半疑 担当 視点	今晚 度胸 むね 胸が高鳴る いたい 頭が痛い 歯が痛む 心を痛める つとめる 会社に勤める つとまる 無事に勤まる あぶない 危ない場所 すがた パジャマ姿 うたがう 人を疑う
漢字の広場①（１） ５年生までの漢字		◎ ５年生までに配当されている漢字を読む。 出来事を記事のようにして伝える文を書く。	
【語彙・表現】 桜 復旧 改革 防災 銭湯 燃える 寄港 句会 立ち入り禁止 事故 新婦 河口 検証 原因 仏像 耕す 祝賀 水質 調査 入居 文化財 保護 肥料 団地 入居 往復 県境			
春のいぶき（１） 立春から立夏まで 春の俳句 語感、使い方		● 二十四節気(にじゅうしせっき) こよみのうえで季節を二十四に区切る。	
【語彙・表現】 清明【せいめい】 四月五日ごろ 気候がしだいに温暖になり、すがすがしく、明るい空気に満ちあふれるころ。 立春【りっしゅん】 二月四日ごろ 木々こよみのうえで、春が始まる日。まだ寒さはきびしいが、だんだん日がのび、木々が芽ぶいてくる。 春分【しゅんぶん】 三月二十一日ごろ 昼と夜の長さがほぼ等しくなる。これより後は、昼の時間が長くなっていく。春のひがんの中日である。 雨水【うすい】 二月十九日ごろ ふる雪が雨に変わり、深く積もった雪も解け始める。 穀雨【こくう】 四月二十日ごろ このころから、早春の気配が感じられるようになる。 啓蟄【けいちつ】 三月六日ごろ いろいろな穀物をうるおし、芽を出させる春の雨という意味。 これを過ぎると、いよいよ夏が近づいてくる。 地中で冬眠していた虫がはい出てくるころという意味。 春も、もうまもなく本番になるころである。			
立春や月の兎は耳たてて 星野椿 清明や街道の松高く立つ 桂信子			
反対語・同意語			

日本語(国語)【小6】5月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小6 5月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
笑うから楽しい (6)	◎ 事実と感想・意見などの関係、筆者の意図を明確にして読む。 ○ 筆者の説明の工夫 【S1】「笑うから楽しい」を読む。 【S2/S3】事実と筆者の意見を整理する。 ・ 筆者の考えは、どの段落に書かれているか。 ・ どのような事例を出しているか。 【S4】筆者の考えに対する自分の考えを述べる。
時計の時間と心の時間 発表	【S1】「時計の時間と心の時間」を読む。 【S2/S3】筆者の挙げている事実や例の要旨をまとめる。 【S4】筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。
【語彙・表現】 筆者の意図 具体例 密接 脳 表情 ゆかいな気持ち 呼吸 血液濃度 大切な要素 楽しい気持ちが生じる 深く関わり合う 身近な存在 性質の違う二つの時間 さまざまな事から 感覚 あっという間(ま) 時間帯 経過 複数 刺激 映した 画面 円の増減 傾向 特性 感覚がことなる 間の取り方 不可欠 たがいを気づかいながら ストレス 事例を挙げる 説得力 五十字程度 筆者 主張 述べる 共感 納得 知識 経験 調査 研究 ・ ~のえいきょうを受ける。 ・ ~と関係がある。 ・ という傾向がある。 【新出漢字】 私 シ 私語 私服 激 ゲキ 刺激 感激 はげしい 激しく流れる わたくし 私事 私ども わたし ぼくと私 映 エイ 映画 映像 密 ミツ 密接 精密 うつる 鏡に映る うつす 映し出す はえる 脳 ノウ 頭脳 首脳 簡 カン 簡単 簡潔 呼 コ 呼吸 点呼 よぶ 呼び起こす 机 つくえ 机に向かう 吸 キュウ 呼吸 吸入 すう 空気を吸う 難 ナン 災難 難問 (かたい) 存 ソン 存在 存続 ゾン 保存 存分 むずかしい 難しい問題 刻 コク 時刻 一刻 きざむ 心に刻む 段 ダン 段落 段階	

学級討論会をしよう 伝えにくいことを伝える（7） 注意のしかた 意見の伝え方	◎ 人に受け入れられやすい注意のしかたや意見の伝え方 [S1]「伝えにくいことを伝える」を読む。 [S2/S3] 説得力のある話し方や質問のしかたについて考える。 [S4] 意見の伝え方について考える。 たいせつ 主張を伝える話し合いをする 討論を行うときは、次のことに気をつけて、主張し合うようにする。 ・ 立場や主張を明確にして発言する。 ・ 主張と理由の関わりを分かりやすく説明する。 ・ 相手の発言の意図を考えながら聞き、その主張と理由が適切かどうかを検討する。 ・ たがいの立場の、いちばんのちがいは何かを考える。
【語彙・表現】 立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論会をする。 肯定 否定 納得 解決策 学級文庫 議題 役割 司会 記録係 時間管理係 意欲的 発言 主張 明確 質疑応答 説得力 発言の意図 適切 検討 理由の示し方 考えを広げる 伝えにくいこと 冷静 受け止める 言葉や表現を選ぶ 口調 燃えるごみ専用 捨てる 見かける 話し合いが しづらい 体調 座席をゆずってほしい 至急 重なる 【新出漢字】 討 トウ 討論 検討 論 ロン 討論 結論 否 ヒ 否定 安否 いな 策 サク 解決策 対策 割 カツ わる 竹を割る わり 役割 割合 われる 皿が割れる 欲 ヨク 意欲的 欲望 ほっする（ほしい） 除 ジョ 除雪 除去 のぞく 雑草を除く 専 セン 専用 専門家 捨 シャ 取捨選択 すてる ごみを捨てる 班 ハン 班長 班員 座 ザ 座席 正座 すわる 至 シ 至急 冬至 いたる 目的地に至る	
言葉の意味 ことわざ 慣用句	

日本語(国語)【小6】 6月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小6 6月 ユニット・指導内容・ステップ									
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7									
ユニット[観点]・日本語テキスト			指導内容						
漢字の形と音・意味（2） 同じ部分をもつ漢字 音読みと訓読み 音読み・訓読みが二つある漢字 音読み・訓読みが同じで意味が異なる漢字 漢字の特別な読みかた			◎ 漢字を組み立てている部分には、音を表すものや意味を表すものがある。 ★ 「同じ部分をもつ漢字」一形・音・意味。 【S1】 「同じ部分をもつ漢字」は形だけでなく音も共通する場合があることを知る。 【S2】 「同じ部分をもつ漢字」は意味につながりがある場合があることを知る。 【S3】 四つの部分をもつ漢字の意味を考える。 【S4】 漢字辞典で確かめる。						
【語彙・表現】 【S1】 (化・貨・花) ・ 警備を強 [□] する。 ・ 県庁のそばの桜が開 [□] した。 ・ 蒸気機関車が、 [□] 物列車を引っ張る。 ② (静・清・晴・青) ・ [□] 潔な洗面所で顔を洗う。 ・ 冷 [□] な判断で、物事に対処する。 ・ あの [□] 年は、銀行に就職した。 ・ [□] 天なので、洗濯物を干す。 ③ (則・側・測) ・ 乳児の体重を [□] 定する。 ・ 規 [□] 正しい生活をする。 ・ 箱の [□] 面に名前を書く。									
月 行く」や「道」などの意味を表す漢字に使われます。 元は「肉」で、体に関係のある漢字に使われます。									
【新出漢字】 我 が われ 我々 幕 マク 開幕 字幕 バク 幕府 幕末 警 ケイ 警備 警告 庁 チョウ 県庁 市庁舎 蒸 ジョウ 蒸気 蒸発 むす むれる むらす 洗 セン 洗面所 あらう 顔を洗う 処 ショ 対処 処理 就 シュウ 就職 就任 つく つける 干 カン 干拓 干潮 ほす 洗濯物を干す 乳 ニュウ 乳児 母乳 ちち 乳を吸う 城 ジョウ 城下町 築城 しろ お城 従 ジュウ 従順 従業員 したがう 指示に従う 裁 サイ 裁判所 独裁 したがえる 家来に従える 臓 ゾウ 心臓 臓器 さばく 罪人を裁く 肺 ハイ 肺活量									
私と本（5） 森へ 文章全体の構成			◎ 文章全体の構成の効果 【S1】 リード文や「活動の流れ」を読む。 【S2/S3】 「森へ」を読む。 【S4】 「いちばん心に残っている本」について、まとめる。						
【語彙・表現】 どんな本に出会ったか 本はどのような存在なのか ふり返る 心に残っている本 友達と伝え合う ノンフィクション 伝記									

SF	ファンタジー	じっくり	ぱらぱら	地域	ボランティア	バッテリー	ブックガイド
----	--------	------	------	----	--------	-------	--------

【新出漢字】

冊　　サツ　　一冊　　冊子
域　　イキ　　地域　　流域
潮　　チョウ　　風潮　　満潮　　しお　　潮風　　満ち潮
砂　　サ　　砂糖　　砂鉄　　すな　　砂はま　　砂場
樹　　ジュ　　樹林　　果樹園
治　　エン　　沿岸　　漁業　　そう　　はまべに　　沿う
暮　　くれる　　夕暮れ　　くらす　　日々の　　暮らし
垂　　スイ　　垂直　　たれる　　垂れ下がる　　たらず　　糸を垂らす

穴（ケツ）　　あな　　穴が空く
骨　　コツ　　鉄骨　　骨折　　ほね　　動物の骨
厳　　ゲン　　ゴン　　厳守　　厳重　　きびしい　　厳しい自然

宝　　ホウ　　国宝　　宝石　　たから　　宝物　　宝探し
探　　タン　　探検　　探求　　さがす　　本を探す
展　　テン　　展示　　発展

漢字の広場②（１）

５年生までの漢字

◎　５年生までに配当されている漢字を読む。

同音異義語

【語彙・表現】

許可　順序　支える　貸し出し　仮面　祖父　条件　可能　増やす　銅像　入場券　減らす　断る　似顔絵　留める　混雑　酸味　規則
容器　余る　略図　比べる　確かめる　大勢

河鹿の屏風（１）

登場人物の関係や心情、場面

◎　登場人物の関係や心情、場面をとらえる。

【S1】　人物や場面の様子を想像しながら、読み聞かせを聞く。

夏のさかり（１）

夏を表す言葉

●　「夏」を題材にした俳句の季語、音読。

【S1】二十四節気の解説や俳句を読む。

【S2】自分が感じる「夏」を発表する。

【S3/S4】　自分が感じた夏の風景を俳句に表す。

【語彙・表現】

大暑【たいしょ】　七月二十三日ごろ　晴れた日が続き、一年のうちで暑さが最も厳しいころ。
立夏【りつか】　五月六日ごろ　こよみのうえで、夏が始まる日。新緑や若葉に、夏の気配が感じられるようになる。
夏至【げし】　六月二十一日ごろ　一年の中で、昼が最も長く、夜が最も短い日。昔のこよみでは、夏の真ん中とされた。
小満【しょうまん】　五月二十一日ごろ　立夏から十五日目に当たる。陽気がさかんとなり、草木が成長して満ちてくる。
小暑【しょうしょ】　七月七日ごろ　つゆが終わりに近づく。この日から「暑中（夏の暑さがさかんな時期）」に入り、暑

芒種【ぼうしゅ】　六月六日ごろ　「芒」とは、いねや麦などの実のからにある、はりの形をした毛のこと。芒のある穀物の種をまく時期である。

小満のみるみる涙湧く子かな

山西雅子

芒種はや人の肌さす山の草

鷹羽狩行

言葉の種類（名詞）（代名詞）

日本語(国語)【小6】7月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小6 7月 ユニット・指導内容・ステップ									
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7									
ユニット[観点]・日本語テキスト				指導内容					
ようこそ、わたしたちの町へ（11） パンフレット 目次や見出し				パンフレット(文章全体の構成や、目次や見出し、リード文、解説文)					
				【S1】 パンフレットにどのような情報が書いてあるかを調べる。 【S2】 パンフレットの構想を練る。 【S3】 情報を取捨選択し、パンフレットの構成を決める。 【S4】 記事や写真などを配置し、パンフレットを作る。					
				たいせつ 相手や目的を考えて、効果的に伝える【83ページ】 ○ 目的に合わせて、相手の知りたい情報は何かを考える。 ○ 伝えたいことを、根拠を確かめたり、他と比べたりして選ぶ。					

【語彙・表現】									
パンフレット		小冊子	効果的な構成	記述	構想を練る	ブレインストーミング	取材	推敲	優先順位
ページ割り付け		題名	目次 見出し	参考資料	誤字	キャッチコピー	着目して	根拠	数値
【新出漢字】									
訪	ハウ	訪問	来訪	(おとずれる)	たずねる	外国を訪ねる			
推	スイ	推影	推理	(おす)					
優	ユウ	優先	優勝	(やさしい)	(すぐれる)				
覧	ラン	一覧	回覧						
裏	(リ)	うら	裏表紙	裏返し					
誤	ゴ	誤字	誤解	あやまる	誤った字				
憲	ケン	憲章	憲法						
値	チ	数値	価値	ね	値段	値札	(あたい)		

日本語(国語)【小6】9月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小6 9月 ユニット・指導内容・ステップ									
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7									
ユニット[観点]・日本語テキスト				指導内容					
せんねん まんねん（1） 詩 反復表現				◎ 詩－反復表現の工夫[くふう] 【S1/S2】 感じたことや考えたことが伝わるように音読する。 【S3/S4】 詩における反復表現の工夫に気づく。					
【語彙・表現】				ヤシの木 のっぱ 地べた 地ひびき ミミズ 川の岸 昇って昇って登りつめて					
熟語の成り立ち（2） 熟語のでき方・四字熟語				★ 熟語の成り立ち ★ 漢字4字以上の熟語－四字熟語 【S1/S2】 二字・三字の熟語の成り立ちを理解する。 【S3/S4】 漢字四字以上の熟語の成り立ちを理解する。					
漢字二字の熟語 （1）似た意味の漢字の組み合わせ〈創造〉 （2）意味が対になる漢字の組み合わせ〈縦横〉 （3）上の漢字が下の漢字を修飾する関係にある組み合わせ〈山頂〉 （4）「一を」「一に」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ〈洗顔〉 【問題】 ・忠誠 ・養蚕 ・海底 ・玉石 ・帰国 ・仁愛 ・公私 ・温泉 漢字三字の熟語 （1）二字の語の頭に一字を加えた熟語 ・ 上の語が下の語の性質・状態などを限定するもの。 高性能 低学年 新記録 ・ 「不」「未」「無」「非」などの上の語が、下の語を打ち消すもの。 不安定 未解決 無意識 非常識 （2）二字の語の後ろに一字を加えた熟語 ・ 上の語が下の語を修飾して、物事の名前になるもの。 銀河系 著作権 運動場 ・ 上の語に下の語が意味をそえて、様子や状態を表すもの。 積極的 典型的 画一的 合理化 近代化 自動化 （3）一字の語の集まりから成る熟語 市町村 松竹梅 衣食住 漢字四字以上の熟語 四字以上の熟語も、ふつうはいくつかの語から成り立っている。 （1）一字の語の集まりから成る熟語 春夏秋冬 都道府県 東西南北 （2）いくつかの語の集まりから成る熟語 臨時列車…臨時 - 列車 海水浴客…海水浴 - 客 宇宙飛行士…宇宙 - 飛行 - 士 【新出漢字】 熟 ジュク 熟語 実が熟す （うれる） 仁 ジン 仁愛 仁義 創 ソウ 創造 創作 つくる 文化を創る 泉 セン 温泉 源泉 いずみ 泉がわく 縦 ジュウ 縦横 縦断 たて 縦書き 系 ケイ 銀河系 系図 頂 チョウ 山頂 頂上 いただく 雪を頂く 著 チョ 著作権 著者 （あらわす）（いちじるしい） いただき 山の頂 権 ケン 著作権 人権 （ゴン） 忠 チュウ 忠誠 忠実 臨 リン 臨時 臨機応変 （のぞむ）									

誠 セイ 忠誠 誠心誠意 (まこと) 蚕 サン 養蚕 かいこ 蚕を飼う	宇 ウ 宇宙 宙 チュウ 宇宙 宙返り
たのしみは (3) 短歌のルール	短歌のもつ表現の効果を確かめたり、工夫したりする。 短歌のルール。 【S1/S2】 短歌二首を読む。 【S3/S4】 短歌の内容を理解する。 ・短歌は、五・七・五・七・七の三十一音で表す。
【語彙・表現】 【新出漢字】	歌人 日常 暮らし 短冊 衣食住 趣味 五・七・五・七・七 三十一音 並 なみ 並木 並の品 ならべる 材料を並べる 一列に並ぶ ならびに 本並びに雑誌
漢字の広場③ (1) 5年生までの漢字	5年生までに配当されている漢字を読む。
【語彙・表現】 招待状 飼う 現れる 移動 快適 限界 険しい 迷う 破損 独り 墓場 暴風雨 非常事態 枝 夢 強敵 絶望 正義 退散 感謝 久しぶり 舌 群れ 再会 博識	
未来がよりよくあるために (10) 平和のとりでを築く 意見文	◎ 構成を工夫して、自分の意見を明確に伝える文章を書く。 【S1】「平和のとりでを築く」を読む。 【S2】意見文の組み立てを知る(初め・中・終わり)。 【S3/S4】どんな未来にしていきたいかを考える。 たいせつ 意見を聞き合い、考えを深める 【95ページ】 ○ さまざまな立場や考え方かおることをふまえる。 ○ 内容や考えの中心、根拠、事例など、自分とどこが同じで、どこがちがうのか、また、それがなぜなのかを考えながら聞く。
【語彙・表現】 自然環境 親善 キーワード 根拠 質問や助言 反論 説得力が増す 引用 出典 構成表 事例 戦争をいましめる たどってきた年月 思わずにはいられなかった 川のほとり 小さいながら ひときわ目立つ 一瞬のうちに たちまち炎上 むごたらしいありさま 一刻も早く 後押しされて 手厚く保護 痛ましい姿 惨害 無言で告げている	
【新出漢字】 善 ゼン 親善 善意 よい 善い行い 純 ジュン 単純 純真 遺 イ 世界遺産 遺作 傷 ショウ 負傷者 重傷 きず 傷だらけ 若 わかい 若い人 若者 巻 カン 全巻 巻末 まき とらの巻	射 シャ 放射線 発射 いる 矢を射る 補 ホ 補強 立候補 おぎなう 言葉を補う 盟 メイ 加盟 同盟 貴 キ 貴重 貴族 模 モ 模様 模型 ボ 規模 認 みとめる 実力を認める
言葉の種類 (動詞) (感動詞)	

日本語(国語)【小6】10月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単位)

日本語(国語) 小6 10月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
漢字の広場④(1) 5年生までの漢字	5年生までに配当されている漢字を読む。
【語彙・表現】 番組制作 提案 資料 複数 鉱物 輸入 貿易 報道 国際情勢 解説 準備 設営 測る 指示 武士 貧しい 指導 質素 演技 妻 正解 逆転 成績 税金 主張 述べる 政治家 賛成	
生活の中の言葉(2) 敬語(尊敬語)(けんじょうご)(ていねいご)	★ 日常よく使われる敬語の使い方(小5 6月にも指導) 「丁寧語[ていねいご]」「尊敬語[そんけいご]」「謙譲語[けんじょうご]」 【S1】 日常生活での言葉遣いを振り返る。 【S2】 例文を見て敬語とその種類の違いを見つける。 【S3/S4】 例文の表現を適切な敬語に言い換える。
【語彙・表現】 ていねい語 「です」「ます」などの、ていねいな言葉づかい。相手に対する敬意を表す。 尊敬語 相手や話題になっている人を敬う気持ちを表す。 けんじょう語 自分や身内の者の動作をけんそんして言うことによって、その動作を受ける人への敬意を表す。	
【新出漢字】 敬 ケイ 敬語 尊敬 うやまう 相手を敬う 署 ショ 警察署 署名 尊 ソン 尊敬語 尊重 たつとい 尊い精神 宅 タク 自宅 宅配便 たつとぶ 恩師を尊ぶ 装 ソウ 装置 服装 どうとい 尊い命 操 ソウ 操作 体操(みさお)(あやつる) どうとぶ ルールを尊ぶ 紅 コウ 紅茶 紅白(ク) べに 口紅(くれない) 郵 ユウ 郵便局 郵送 糖 トウ 砂糖 糖分	
やまなし(7) イーハトーブの夢 語感や言葉の使い方	朗読 場面についての描写 優れた叙述(語感や言葉の使い方) 【S1/S2】 「やまなし」と「イーハトーブの夢」を読む。 【S3/S4】 賢治の生き方や考え方について考える。
【語彙・表現】 谷川の底 青い幻灯 かぶかぶ 鋼 天井 つぶつぶ ぽつぽつぽつ 水銀のように つうと銀の色の腹をひるがえして 平べったい頭 にわかに お口を輪のように コンパスのように ゆらゆらゆら 居すくまってしまいました はじ かわせみ かばの花 すべりました 水晶のつぶや金雲母のかけら ～たり～たり 辺りはしんとした も一つ イサド	

トブン ばかばか流れていく かげ法師 サラサラ もかもか ひとりでに										
質店	裕福	一生をささげたい		曲尺	暴れる自然	冷夏	目をみはるほど美しい		天上の風景	身を切られるときの痛
み	日なた	ぼっこのこちよさ		ひどい批評	あれ地	衰弱ぶり	死のどこ	片すみ	うずたかく積まれ	
【新出漢字】										
朗	ロウ	朗読	朗報 (ほがらか)			尺	シャク	曲尺	一尺	
枚	マイ	二枚	枚数			寸	スン	寸法	原寸大	
腹	フク	中腹	腹痛	はら	腹が立つ	暖	ダン	温暖	暖冬	あたたか 暖かな気候
降	コウ	以降	降雨	おりる	列車を降りる					あたたかい 暖かい部屋
				おろす	乗客を降ろす					あたたまる 空気が暖まる
				ふる	雨が降る					あたためる 室内を暖める
縮	シュク	縮小	短縮	ちぢむ	あみが縮む	揮	キ	指揮者	発揮	
				ちぢまる	差が縮まる	批	ヒ	指揮者	発揮	
				ちぢめる	長さを縮める	劇	ゲキ	劇団	劇場	
				ちぢれる	糸が縮れる	閉	ヘイ	閉会式	開閉	とじる 本を閉じる
				ちぢらす	布を縮らす					しめる ドアを閉める
棒	ボウ	鉄棒	棒切れ							しまる 店が閉まる
秋の深まり (1)				● 「秋」を感じる言葉を見つける。秋の詩や短歌・俳句						
秋を感じる詩や短歌・俳句				【S1】「秋」を感じる言葉を出す。						
				【S2】二十四節気の意味を確かめる。						
				【S3】俳句二句のおおまかな意味を捉える。						
				【S4】「秋」をテーマに短歌を作る。						

【語彙・表現】										
秋分【しゅうぶん】	九月二十三日ごろ	春分と同じく、昼と夜の長さがほぼ等しくなる。								
立秋【りつしゅう】	八月八日ごろ	これより後は、夜の時間が長くなっていく。秋のひがんの中日である。								
処暑【しよしよ】	八月二十三日ごろ	こよみのうえで、秋が始まる日。まだ残暑は厳しいが、よく風に、秋に近いことが感じられるようになる。								
白露【はくろ】	九月八日ごろ	暑さがやむという意味。立秋から十五日目に当たる。								
寒露【かんろ】	十月八日ごろ	このころからすずしくなり始める。								
霜降【そうこう】	十月二十三日ごろ	草木の葉につゆが結ぶころ。このころから、だんだん秋らしい感じが増してくる。								
		冷気に当たって、つゆもおおりそうになるころ。木々の葉も、紅葉したり、落葉したりするようになる。								
		しもが降りるころ。虫の音が減り、寒さが増して、冬の到来が近づいてきたことを感じられるようになる。								
秋たつや川瀬にまじる風の音 飯田蛇笏										
ひとつつつ山暮れてゆく白露かな 黛執										
言葉の種類 (助詞) (助動詞)										

日本語(国語)【小6】11月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小6 11月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
鳥獣[ちようじゅう]戯画[ぎが]を読む (6) 絵画や写真を見るときには 事実と意見	◎ 事実と意見を読み分ける。 【S1】 P137の絵を見て感じたことを話す。 【S2】 『鳥獣戯画』の「何」を「どのように」すばらしいと感じているのかを感じながら、教材文を読む。 【S3/S4】 筆者の表現や構成の工夫点を整理する。
【語彙・表現】 はっけよい、のこった 外掛け かわず掛け たまらず顔をそむけ、ひるんだ 気品 いきいきと躍動 まるで人間みたい 人間くさい いく筋 まだら模様 空想 ひょいと立って 国宝の絵巻物 漫画の祖 ためしに、めくってごらん アニメ の祖 コマ割り まるで同じようなこと もんどりうって たいしたものだ あくまでも和気あいあいとした ～にちがいない くり広げる とびきりすぐれた絵巻 おおいに楽しむ とぎれることなく続いている とびきりモダン 生み出された し かも 幾多の変転や火災のたび 【新出漢字】 乱 ラン 乱暴 散乱 みだれる 咲き乱れる みだす 列を乱す 筋 キン 筋肉 鉄筋 すじ いく筋 背 ハイ 背景 背後 せ 背中 背負う せい 背比べ (そむく) (そむける)	
この絵、私はこう見る (6) 感じたことを表す表現	◎ 読み取ったことや感じたことを表す表現 【S1】 さし絵を見て感じたことを話す。 【S2】 さし絵を見て読み取ったこと感じたことを書き出す。 【S3/S4】 書いたものを読み合い、感想を交流する。 ・何 ・だれ ・どこ ・いつ ・大きさ ・色 ・形 ・ポーズ ・動き ・音 ・におい ・天気や温度など ・何を表しているか ・不思議だ、分からないと感じるところ ・絵をかいた人の思い
漢字を正しく使えるように(2) 覚えていきたい言葉 訓読み 音読み	◎ 送り仮名[おくりがな]や★ 仮名遣い[かなづかい] ◎ 訓読み 音読み 熟語 【S1】 適切な漢字を書くための方法を知る。(訓読みの場合・音読みの場合)

熟語	【S2】設問の漢字の間違いを正しく書き換える。 【S3/S4】「覚えておきたい言葉」に出てくる言葉の意味を知る。
【新出漢字】 穀 コク 穀物 五穀 収 シュウ 収納庫 吸収 おさめる 成功を収める おさまる 争いが収まる 納 ノウ 収納庫 納税(ナッ)(ナ)(ナン)(トウ) おさめる 品物を納める おさまる 倉庫に納まる 延 エン 延長戦 延期 のびる 試合が延びる のばす 出発を延ばす 供 キョウ 提供 供給(ク) そなえる 花を供える とも 供を連れる 諸 ショ 諸国 諸条件	衆 シュウ 観衆 群衆 磁 ジ 電磁石 磁力 皇 コウ 皇室 皇居 オウ 天皇 皇子 后 コウ 皇后 陛 ヘイ 陛下 律 リツ 法律 規律(リチ) 党 トウ 政党 党派 閣 カク 内閣 天守閣 革 カワ 改革 革命(かわ) 宗 シュウ 宗教(ソウ)
伝えられてきたもの(5) 狂言 柿山伏 日本の伝統文化、狂言	◎ 日本の伝統文化、狂言[きょうげん]独特の言葉遣い[づかい]や言い回し。 【S1】「伝えられてきたもの」を読み、日本の伝統文化について知る。 【S2】「柿山伏」を読む。 【S3】狂言独特の表現と話の筋を理解する。 【S4】狂言が伝えようとしていることやおもしろさについて考える。
【語彙・表現】 語りつぎ、歌いついできた 先祖 書き記す 現存する日本最古の歌集「万葉集」 神話や地方の伝承を記した書物 長編物 語「源氏物語」 随筆「枕草子」 戦いをあつかった作品 戦いぶり 勇ましい武士 人々の心情 僧侶 町人 十返舎一 九「東海道中膝栗毛」 人情味豊か 俳句「HAIKU」 松尾芭蕉 劇や演芸 落語 能 歌舞伎 人形浄瑠璃(文楽) 狂言 しぐさ 「シテ」主役 「アド」相手役 大名に仕える家臣 山伏 愉快 奇特 行力 ことの外 日本の古典芸能 空腹のあまり こらしめられる 厳しい修行 とび こっけいな姿 かしこさ おろかさ いたわり合 い 断りもなく 心がせまい 事情がちがう 頭に入れておく 【新出漢字】 俳 ハイ 俳句 俳優 己 コ 自己 利己的 届 とどける 荷物を届ける とどく 心に届く 困 コン 困難 こまる 返事に困る 看 カン 看病 看板 染 そめる 真っ黒に染める そまる 赤く染まる(しみる)	

日本語(国語)【小6】12月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小6 12月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
日本で使う文字(2) 仮名の由来	◎ 平仮名・片仮名の由来 ◎ 日本語の表記 ◎ 表記方法の特徴 【S1/S2】「仮名の由来」を読み、平仮名・片仮名の由来を知る。 【S3/S4】「日本語の表記について」「ローマ字との関わり」を読み、それぞれの表記方法の特徴を知る。
【語彙・表現】 由来 やまと言葉(和語) 万葉仮名 表意文字 表音文字 【新出漢字】 異 イ 異口同音 こと 意見が異なる	
漢字の広場⑤(1) 5年生までの漢字	◎ 5年生までに配当されている漢字を読む。 【S1/S2】漢字を読む。会話を入れた文章 【S3】商店街の通りやお店の中の様子や会話を想像する。 【S4】5年生までに習った漢字を正しく使って、会話を入れた文章を書く。
【語彙・表現】 医師 眼科 効く 採る 血液 精米 米俵 承知 預金 応対 犯罪防止 職務 夕刊 厚着 百円均一 価格 豊富 徳用品 綿織物 編み物 布 領収書 興味 芸術 評判 個性的 版画 弁当 衛生 清潔 半額 接客	
表現を選ぶ(3) 話し言葉と書き言葉	◎ 伝える方法による表現のちがい 書き言葉と話し言葉 【S1】教材文を読む。 【S2】例文を人に伝える表現にし、変えた理由を話し合い、その条件を整理する。 【S3】話し言葉と書き言葉の違いについて整理する。 【S4】設問について考え、話し合う。
【語彙・表現】 P172例文 「今日は授業参観だった。二組は、国語の授業だった。多くの人が発表した。」 地域の人に手紙で伝える場合 「来週、体育館で演奏会を行う。曲をたくさん演奏する、とても楽しい会だ。ききたい人は、学校に申し込みが必要だ。」	

「来週、体育館で演奏会を行います。曲をたくさん演奏する、とても楽しい会です。おききになりたい方は、学校に申し込みが必要です。」

p175設問

【S1】 次の言葉は、それぞれ、どのような場面で使うことが多いですか。友達と話しましょう。

〈例〉「でも」－「しかし」 「ちょっと」－「少し」

【S2】 次の話を、伝える相手と場面を決めて、書き言葉で表しましょう。
書き終わったら友達と読み合い、表現のしかたのちがいをを見つけましょう。

「新聞とか雑誌とかテレビとかで、片仮名の言葉をいっぱい見たり聞いたりするけど、意味が分からないのがよくあるんだ。片仮名の言葉が悪いってわけじゃないけど、あんまり使いすぎても分かりにくい気がするし、難しいやつなら、日本語のほうが分かりやすいんじゃないかって思うんだ。みんなにも話を聞いてみたいな。」

考えようがありません 間の取り方こそあど言葉 方言 言葉がはさまれたり、語順が整わなかったり 誤字 共通語で書き、語順や構成を整える くださった言葉 漢語・和語・外来語

【新出漢字】

奏 ソウ 演奏会 合奏（かなでる）
誌 シ 雑誌 週刊誌

天地の文（1）
古文や漢文の音読

◎ 古文や漢文の内容を知り、音読する。

【S1/S2】 「天地の文」を繰り返し音読する。

【S3/S4】 人の暮らしの基本となる時間、週日などの決め事について書かれていることを理解する。

【語彙・表現】

天地の文 福澤諭吉

天地日月。東西南北。きたを背に南に向かひて右と左に指させば、ひだりは東、みぎはにし。日輪、朝は東より次第にのぼり、暮れはまたにしに没して、夜くらし。一昼一夜変わりなく、界を分けし午前午後、前後合わせて二十四時、時をあつめて日を計へ、日数つもりて三十の数に満つれば一か月、大と小とにかかはらず、あらまし分けし四週日、一週日の名目は日月火水木金土、一七日に一新し、一年五十二週日、第一月の一日は年たち回る時なれど、春の初めは尚遅く初めて来る第三月、春夏秋冬三月づつ合わせて三百六十日、一年一年又一年、百年三万六千日、人生わづか五十年、稚き時に怠たらば老いて悔ゆるも甲斐なかるべし。

漢字の筆順・画数

日本語(国語)【小6】1月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小6 1月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
未知へ（1） 詩を味わう	◎ 自分の気持ちと重ねて音読したり、考えたりする。 【S1/S2】「未知へ」を音読する。 【S3】 自分の気持ちと重なるところがあるか考える。 【S4】 詩から考えたこと・自分の気持ちを文章にする。
【語彙・表現】 未知へ 木村信子 わたしが響いている 透明な殻の中で響いている ありったけ響いている 外はもうすぐ春らしい わたしが響いている 痛いほど響いている あふれるほど響いている もうすぐわたしは割れるのだ わたしが響いている おもてへこだまして響いている まだ見たこともない山へ胸をときめかせて わたしが響いている	
自然に学ぶ暮らし（6） 筆者の考え自分の考え	◎ 文章の内容を的確に押さえる。 【S1】 教材文を読む。 【S2/S3】 筆者の挙げている事例を整理する。 【S4】 「新しい暮らし方」がどのようなものをまとめる。
【語彙・表現】 リサイクル 省エネルギー 資源 自然を利用した新しいエネルギー 自然そのものから学ぶ 空気調整の仕組み 事例と ともに 湿度 サバンナ地帯 れい度を下回る 厳しい気候 トンネルの中を空気がめぐり 無数に空いている 素材 外敵 から身を守る 空気の層 はじけるときの力 試み 自然に囲まれた 暮らしの在り方 社会のえがき方 そこで → まず → 一つ目 → 二つ目 → 次に → これらとは別に → このように 【新出漢字】 誕 タン 誕生 生誕地 秘 ヒ 秘密 神秘（ひめる） 窓 ソウ 車窓 同窓会 まど 窓口 天窓 幼 ヨウ 幼虫 幼児 おさない 幼い妹 層 ソウ 地層 高層 卵 （ラン） たまご ゆで卵 生卵 済 サイ 経済 救済 すむ 仕事が済む すます 宿題を済ます	

漢字の広場⑥ (1) 5年生までの漢字	5年生までに配当されている漢字を読む。 【S1/S2/S3/S4】 教科書の絵の中の小学校生活について想像し、5年生までに習った漢字を正しく使って、出来事や気持ちを想像しながら文章を書く。
【語彙・表現】 桜 校舎 習慣 所属 基本 効率 製造過程 永久 友情 恩師 授業 修学旅行 新幹線 総力 圧勝 団結 責任 統一 経験 編集 構成 在校生 講堂 大志 卒業証書	
忘れられない言葉 (6) 随筆	◎ 経験から書くことを決め、書く事柄を整理する。 【S1/S2】「ふわふわの雪」を例に、「随筆」の書き方や内容の特徴を知る。 【S3/S4】随筆の文章構成や工夫点を考える。 ア 忘れられない言葉を書く。読み手を引きつける書きだしの工夫をする。 イ その言葉に出会ったときのことを、具体的に書く。 ウ その言葉に出会って、どんなことを思ったり考えたりしたかを書く。 たいせつ ○ 出来事などの事実と、思いや考えなどを、どのように書き表すか工夫する。 ○ 経験したことなどが、自分にとってどのような意味をもったのかを書く。
【語彙・表現】 ふわふわ 予備知識 そかい 羽のように軽く(雪) 一夜にして うっかり しりもちをつく 雪下ろし 祖父 わくわくしながら あらなわでしる 窒息 自家製のそり 「随筆」 自分が経験したことや、見たり聞いたりしたことの中から、忘れられないような印象深いことを取り上げ、それについて自分の思いや考えを書くこと 〈思い出そう〉・だれかに言われた言葉 ・本や新聞などで読んだ言葉 ・テレビやラジオ、映画などで見聞きした言葉 ・好きな歌の歌詞 【新出漢字】 忘 (ボウ) わすれる 宿題を忘れる 詞 シ 歌詞 作詞	
言葉の種類 (副詞) (連体詞)	

日本語(国語)【小6】 2月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小6 2月 ユニット・指導内容・ステップ																	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7																	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容																
ガンジー博士の山登り (2) 紛らわしい送り仮名	★ 紛らわしい[まぎらわしい]送り仮名[おくりがな] 【S1/S2/S3/S4】 漢字クイズ 漢字の「読み方」「使い方」「送り仮名」に関する問題																
【語彙・表現】 1 線の中で、「初夏」の 線部分と同じ読み方をするのはどれか。 【S1】 家屋 【S2】 家来 【S3】 家賃 2 線の読み方が他と異なるのはどれか。 【S1】 支障 【S2】 綿糸 【S3】 様子 【S4】 死亡 3 読み方が正しいのはどれか。 【S1】 調子 (ちょうこ) 【S2】 黄金 (おうごん) 【S3】 孝行 (こうぎょう) 4 漢字の使い方が正しい文はどれか。 【S1】 株式会社に務める。 【S2】 聖火ランナーを務める。 【S3】 映画の宣伝に務める。 5 線の平仮名に当てはまる漢字はどれか。 問屋に絹織物を <u>おさ</u>める。 【S1】 収 【S2】 納 【S3】 修 6 線の中で、送り仮名がまちがっているのはどれか。 【S1】 鉄鋼の輸出量が増えた。 【S2】 生産の拡大を試みた。 【S3】 お地藏様を拝んだ。 7 線の中で、送り仮名が正しいのはどれか。 【S1】 立派な業績を残す。 【S2】 通訳になることを志す。 【S3】 父の郷里を訪ねる。 【新出漢字】 <table border="0"> <tr> <td>賃 チン 家賃 運賃</td><td>鋼 コウ 鉄鋼 鋼材 (はがね)</td></tr> <tr> <td>障 ショウ 支障 故障 (さわる)</td><td>拡 カク 拡大 拡張</td></tr> <tr> <td>亡 ボウ 死亡 亡命 (モウ) (ない)</td><td>蔵ゾウ 地藏 蔵書 (くら)</td></tr> <tr> <td>孝 コウ 孝行 忠孝</td><td>拝 ハイ 拝見 参拝 おがむ 地藏を拝む</td></tr> <tr> <td>株 かぶ 株式会社</td><td>派 ハ 立派 流派</td></tr> <tr> <td>聖 セイ 聖火 聖地</td><td>訳 ヤク 通訳 訳者 わけ 言い訳</td></tr> <tr> <td>宣 セン 宣伝 宣言</td><td>郷 キョウ 郷里 故郷 (ゴウ)</td></tr> <tr> <td>絹 きぬ 絹織物</td><td></td></tr> </table>		賃 チン 家賃 運賃	鋼 コウ 鉄鋼 鋼材 (はがね)	障 ショウ 支障 故障 (さわる)	拡 カク 拡大 拡張	亡 ボウ 死亡 亡命 (モウ) (ない)	蔵ゾウ 地藏 蔵書 (くら)	孝 コウ 孝行 忠孝	拝 ハイ 拝見 参拝 おがむ 地藏を拝む	株 かぶ 株式会社	派 ハ 立派 流派	聖 セイ 聖火 聖地	訳 ヤク 通訳 訳者 わけ 言い訳	宣 セン 宣伝 宣言	郷 キョウ 郷里 故郷 (ゴウ)	絹 きぬ 絹織物	
賃 チン 家賃 運賃	鋼 コウ 鉄鋼 鋼材 (はがね)																
障 ショウ 支障 故障 (さわる)	拡 カク 拡大 拡張																
亡 ボウ 死亡 亡命 (モウ) (ない)	蔵ゾウ 地藏 蔵書 (くら)																
孝 コウ 孝行 忠孝	拝 ハイ 拝見 参拝 おがむ 地藏を拝む																
株 かぶ 株式会社	派 ハ 立派 流派																
聖 セイ 聖火 聖地	訳 ヤク 通訳 訳者 わけ 言い訳																
宣 セン 宣伝 宣言	郷 キョウ 郷里 故郷 (ゴウ)																
絹 きぬ 絹織物																	
春を待つ冬 (1) 冬を感じる言葉	● 冬を感じる言葉を知る。 【S1/S2】 「冬」や「春」を感じる言葉を見つける。 【S3/S4】 二十四節気の意味を確かめる。																
【語彙・表現】 大寒【だいかん】 一月二十日ごろ 一年の中で最も寒い時期。「寒」が明けて立春になると、春が近づいてくる。 立冬【りっとう】 十一月七日ごろ こよみのうえで、冬が始まる日。まだ秋の気配は残っているが、しだいに冬に近づいていく。 冬至【とうじ】 十二月二十二日ごろ 一年の中で、昼の時間が最も短く、夜が最も長い日。かぼちゃなど、特定の物を食べる習わしがある。																	

小雪【しょうせつ】 十一月二十二日ごろ 寒さはまだ深まっておらず、雪もそれほど多くはないころ。冬の気配は進んでくる。 小寒【しょうかん】 一月五日ごろ この日から立春になるまでの期間を「寒」といい、小寒は「寒の入り」ともいわれる。 大雪【たいせつ】 十二月七日ごろ 寒気が増し、雪も激しくなってくるころ。この日を過ぎると、いっそう冬らしくなる。 立冬のことに草木のかがやける 沢木欣一 海の日のあるありしづむ冬至かな 久保田万太郎	
海の命（６） 登場人物の心情、場面の描写	◎ 登場人物の心情、場面の描写[びょうしゃ] 【S1】「海の命」を通読する。 【S2】内容や場面分け、登場人物の関係を確認する。 【S3/S4】登場人物のそれぞれの生き方、関わり合いや心情の変化を捉える。 ・太一 ・父 ・与吉じいさ ・母
【語彙・表現】 季節や時間の流れとともに変わる海 もぐり漁師 潮の流れ 瀬 クエ しとめる 海のめぐみ 不漁 もり 弟子 バタバタ イサキ プリ おかげさまで 悲しみがふき上がってきた 海に帰っていった はだに水の感触がこちよい 海中に棒になって差しこんだ光 かがやきながら交差する アワビ サザエ ウニ 不意に 海草 えら 黒いしんじゅ(ひ とみ) 百五十キロはゆうにこえている 鼻づら おだやかな目 数限りなく ふっとほほえみ 口から銀のあぶくを出した おだやかで満ち足りた 生涯	
【新出漢字】 針 シン 方針 秒針 はり つり針 灰（カイ） はい 灰色 灰皿 奮 フン 興奮 奮発 ふるう 勇気を奮う	
今、私は、ぼくは（６） 言葉遣い	▲ 場に応じた適切な言葉遣い[ことばづかい] 【S1】発表のしかたを確認する。 【S2】間の取り方や身ぶり、効果的な資料の見せ方など話し方の工夫を考える。 【S3】スピーチの会を開き、練習を生かして発表する。 発表やスピーチをするときには、その場に応じた話し方をすることが大切である。 ● 聞き手が、どんな知識や関心をもっているかを考える。 ● 聞き手に応じて、声の大きさや速さ、表情、身よりなど、話し方を 工夫する。 ● 場や聞き手に合った言葉づかいで話す。
【新出漢字】 将 ショウ 将来 将軍	
言葉の種類（接続詞）	

日本語(国語)【小6】3月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 小6 3月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S2】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
卒業するみなさんへ（7） 中学校へつなげよう 生きる 生き物はつながりの中に かなえられた願い 朗読	◎ 思いや考えが伝わるような朗読をする。 【S1/S2】「生きる」を音読する。 【S3】「生き物はつながりの中に」を読む。 【S4】「かなえられた願い」を読む。
生きる 谷川俊太郎	
生きているということ いま生きているということ それはのどがかわくということ 木もれ陽がまぶしいということ ふっと或るメロディを思い出すということ くしゃみすること あなたと手をつなぐこと 生きているということ いま生きているということ それはミニスカート それはプラネタリウム それはヨハン・シュトラウス それはピカソ それはアルプス すべての美しいものに会おうということ そして かくされた悪を注意深くこばむこと 生きているということ いま生きているということ 泣けるということ	生きているということ いま生きているということ いま遠くで犬がほえるということ いま地球がまわっているということ いまどこかで産声があがるということ いまどこかで兵士が傷つくということ いまぶんこがゆれているということ いまいまが過ぎてゆくこと 生きているということ いま生きているということ 鳥ははばたくということ 海はとどろくということ かたつむりははうということ 人は愛するということ あなたの手のぬくみ いのちということ

笑えるということ
怒れるということ
自由ということ

言葉の種類 (形容詞) (形容動詞)

学習に用いる言葉

『話す・聞く・書く学習で用いる言葉』

【討論】ある問題について、たがいの考えのちがいを大切にしながら、意見を出し合ったり、議論をたたかわせたりすること。【45ページ】

【推敲】一度書いた文章をよりよくするために、修正したり、形式や表現を整えたりすること。【79ページ】

【ブレーストーミング】何人かで、一つの話題について自由に意見を出し合うこと。【80ページ】

【意見文】自分の意見を、その根拠となる事からを挙げながら述べる文章。異なる考えや反論を取り上げ、それに対する自分の考えも取り入れると、説得力が増す。【92ページ】

【随筆】自分が経験したり、見聞きしたりしたことを取り上げ、それについて自分の感想や考えをまとめたもの。【90ページ】

『読む学習で用いる言葉』

【読者】本や新聞、雑誌などを読む人のこと。【30ページ】

【朗読】物語や詩などの作品について、自分が感じたことや考えたことから、作品全体への自分なりの思いをもち、それが相手に伝わるように音読すること。【108ページ】

【山場】物語の中で、中心となる人物の見方・考え方や人物の関係が大きく変わるところ。【213ページ】

『言葉の学習で学んだ言葉』

【仮名】漢字を元に、日本で作った文字のこと。平仮名と片仮名。【168ページ】

【話し言葉】音声で表す言葉。基本的に、その場限りで消えてしまう。相手が目の前にいることが多いので、状況を見ながら使うことができる。【173ページ】

【書き言葉】文字で表す言葉。だれがいつ読むのかが分からない場合が多いので、だれが読んでもよく分かるように、共通語で書き、語順や構成を整えて書く。【173ページ】

五年生までに学習した言葉

しょうかい 人物 つなぎ言葉	説明 場面 熟語	報告 あらすじ 漢字の音と訓	提案 語り手 部首	インタビュー 地の文・会話文 和語・漢語・外来語	すいせん 心情	協議 情景 複合語	引用 連 敬語	編集 主語・述語・修飾語 共通語・方言	段落 要約 こそこそ言葉 慣用句	要旨 登場
----------------------	----------------	----------------------	-----------------	--------------------------------	------------	-----------------	---------------	---------------------------	---------------------------	----------

言葉の宝箱

『どんな人物かを表す言葉』

楽観的 悲観的 積極的 消極的 論理的 感情的 熱意のある 率直 まっすぐ おだやか 誠実 温かい
するどい 気難しい えんりよがち 未熟 ーに明るい ーに強い

『どんな物や事がらかを表す言葉』

適切 好ましい ーにかなう ーにふさわしい 不都合 不つり合い 明確 确实 的確 あいまい 不確か
不向き 同一 共通 ーに近い ーに類する 抽象的 具体的 現実的 理想的 さもーのように いかにも
もーのように おそらく やはり きっと もちろん

『感情を表す言葉』

したう あこがれる 好感をもつ かんめいを受ける 心にひびく 圧倒される 我を忘れる 痛快 ここちよい
晴れやか 胸をふくらませる 待ち望む 意気どむ くつろぐ 気が楽になる かたの荷が下りる くすぐったい
顔から火が出る そわそわする おろおろする 気がかり 気が気でない もどかしい ふさぐ 切ない たま
らない なやましい わずらわしい 嫌気が差す むっとする 鼻につく ぐらつく ためらう なごりおいしい
心残り 後悔 味気ない くじける 失望

「たいせつ」のまとめ

『話す・聞く』

主張を伝える話し合いをする 【49ページ】

討論を行うときは、次のことに気をつけて、主張し合うようにする。

- ・立場や主張を明確にして発言する。
- ・主張と理由の関わりを分かりやすく説明する。
- ・相手の発言の意図を考えながら聞き、その主張と理由が適切かどうかを検討する。
- ・たがいの立場の、いちばんのちがいは何かを考える。

意見を聞き合い、考えを深める 【95ページ】

- ・さまざまな立場や考え方かおることをふまえる。
- ・内容や考えの中心、根拠、事例など、自分とどこが同じで、どこがちがうのか、また、それがなぜなのかを考えながら聞く。
- ・たがいに質問や助言をすることを通して、考えを深める。

場に応じた話し方を工夫する 【219ページ】

発表やスピーチをするときには、その場に応じた話し方をすることが大切である。

- ・聞き手が、どんな知識や関心をもっているかを考える。

- ・聞き手に応じて、声の大きさや速さ、表情、身ぶりなど、話し方を工夫する。
- ・場や聞き手に合った言葉づかいで話す。

『書く』

相手や目的を考えて、効果的に伝える【83ページ】

- ・目的に合わせて、相手の知りたい情報は何かを考える。
- ・伝えたいことを、根拠を確かめたり、他と比べたりして選ぶ。

〈パンフレットなどで伝えるとき〉

- ・見出しやキャッチコピー、図や写真などを組み合わせて、読み手を引きつける。
- ・事物のよさを的確に表す言葉や、具体的な数値を用いて書く。

言葉を選んで、短歌を作る【90ページ】

- ・短歌は、五・七・五・七・七の三十一音で表す。
- ・伝えたい思いやそのときの様子を思い出して、言葉を選んだり、並べ方を変えたりするなど工夫する。

説得力のある意見文を書く【99ページ】

- ・「初め」と「終わり」に自分の意見を重ねて書く。
- ・実際にあったことや、それらの記録（具体例・引用など）と、自分の考えを区別して書く。
- ・ことなる考えや反論を取り上げ、それに対する自分の考えも入れる。

読み取ったことと感じたことを表現する【150ページ】

- 読み取ったこと（事実）と感じたこと（感想や意見）を区別し、表現を工夫して書くことよい。
- ・全体の様子をまとめて簡単に書いたり、特に注目してほしい部分をくわしく書いたりする。
- ・問いかけを入れたり、文末の書き方を使い分けたりする。

随筆を書く【195ページ】

- ・出来事などの事実と、思いや考えなどを、どのように書き表すか工夫する。
- ・経験したことなどが、自分にとってどのような意味をもったのかを書く。

『読む』

物語・読書

登場人物の心情と読者の関わり【30ページ】

- ・物語を読むとき、読者は、登場人物のどれかに自分を重ね合わせていることが多い。これは、物語を読むおもしろさの一つである。
- ・登場人物の心情は、周りの人物との関係の中で、ゆれ動いたり、変化したりする。中心となる人物が語り手となる物語では、特にそれがよく分かる。

自分と本の関わりについて考える。【71ページ】

本や読書との関わりを考えることで、今後の読書生活をより豊かにすることができる。

- ・これまでの自分と本との関わりをふり返る。
- ・ふり返って考えたことを、文章にまとめるなどする。
- ・本との関わり方について、友達と伝え合う。

朗読で表現するために 【132ページ】

登場人物の心情や場面の様子などを想像し、作品世界を理解することで、豊かな朗読の表現につなげることができる。

- ・読んで感じ取った自分の思いを、どのように朗読すれば伝えられるかを考え、工夫して声に出す。
- ・必要に応じて、作者について調べたり、作者の他の作品などを参考にしたりする。

登場人物の関係をとらえる 【214ページ】

物語を読むとき、次のような役割に注目することで、人物どうしの関係をとらえやすくなり、物語世界への理解がより深まる。

- ・中心となる人物
- ・中心となる人物と対立する人物
- ・中心となる人物を、助けたり支えたりする人物

説明している文章

筆者の考えに対して、自分の考えをもつために 【44ページ】

- ・筆者が何を考え、挙げている事例によって何を説明しようとしているかをとらえる。
- ・文章を通じて、読者に何を考えてほしいのか、どんな行動をしてほしいのかなど、筆者が文章を書いた目的を考える。
- ・筆者が述べている考えや説明について、自分の知識や経験と関係づけて考える。

筆者のものの見方をとらえる 【146ページ】

作品の見どころやすばらしさについて書かれた文章には、筆者のものの見方が、工夫して表現されている。次のことに着目してみよう。

- ・何を取り上げているか。
- ・取り上げたものの、どこに目を向けて、どのような言葉で説明や解説をしているか。
- ・どのような言葉で評価しているか。

自分の考えを広げる 【188ページ】

- ・感想や意見を伝え合うことによって、一人一人の考え方や、興味をもった点などのちがいに気づく。
- ・自分とはちがう考えにふれることで、自分自身の考えを見つめ直したり、別の観点で考えたりする。